



たらちね通信

Mothers' Radiation Lab & Clinic Fukushima

vol.22



2023.11

たらちね通信



ご支援者の皆さまへ

いつも、たらちねの活動を応援いただき、誠にありがとうございます。

たらちねの活動も先月(11月13日)で、丸12年となりました。月日の経つ速さに驚く一方、あの日々の記憶を忘れることはありません。

8月24日午後1時。政府や東京電力は、福島第一原発のタンクに溜まり続けている放射性物質を含む処理汚染水の海洋放出を開始しました。「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」との約束を反故にし、また国内外の処理汚染水放出反対の声も押しきる形で強行されました。「告示濃度以下に薄めるので安全である」と言っていますが、毎日増え続ける処理汚染水を数十年もの間、海に放出し続けることは、未来に対して取り返しのつかないリスクを負わせてしまうこととなります。

震災当時子どもだった方たちが社会人となり、当時の事を振り返り自らの健康と向き合う年代となりました。事故前後に生まれた子どもたちは、思春期を迎え心も身体も大きく成長する時期になっています。吹き出してくる問題に直面しながらも、科学的視点と思考を起点に、子どもたちの未来を守るための活動に励んでいきます。それはご支援者のみなさまのお心と共にあり、共に歩んでいく道筋でもあると思います。



緊急・ご寄付のお礼

今年の9月からご寄付をお願いし、購入を目指していましたが、甲状腺検診のための「超音波エコー機器 GE社製 Versana Active R1.5」を購入できることになりました。原発事故による初期被曝の影響は現在も、はっきりわからないことが多く、被災地で暮らしていくには、定期的に検診を受けることが大切です。原発事故当時、未成年だった子どもたちは、大人になり、自分の健康を、自分自身で守る年齢となりました。検診を希望される方は、未だに沢山いらっしゃいます。1人でも多くの方が受診できるよう、今後も各地域を周ります。

合わせて、海洋調査継続へのご寄付も多くの皆さまより寄せられました。8月24日13時から開始された処理汚染水の海洋放出は、あまりにも突然のことでした。この方針を容認してしまうと、30年以上に渡り処理汚染水が放出されつづけます。放出前後の、海の変化を可視化するためにも、今後も科学的データをとり続けます。

多くのおみなさまのご厚情と大きなご支援に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



スタッフ紹介



理事長
鈴木薫



事務局長
木村亜衣



クリニック院長
藤田操



クリニックマネージャー
進藤ユリ



看護師
阿部満奈美



甲状腺担当
古関幸子



事務局
岡村みのり



測定・保養担当
田中典子



測定担当
水藤周三



測定担当
相澤雪江



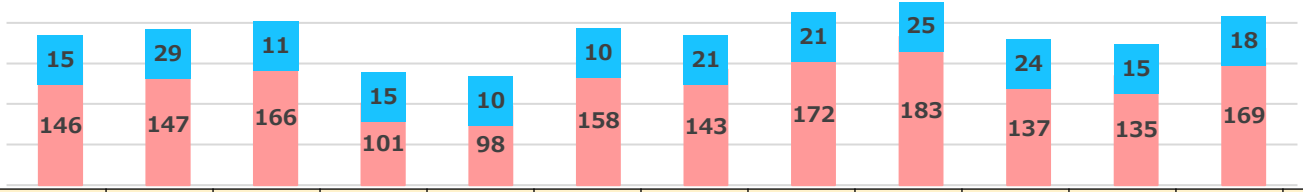
測定担当
鈴木幸美



こころのケア担当
矢吹優美子

放射能測定件数 1969件 (2022年10月～2023年9月)

2022年10月～2023年9月までで1969件の測定(依頼測定その他、海洋調査や公園測定、砂浜測定などで採取した試料も含む)を行いました。セシウム137,セシウム134を測定するための、NAIシンチレーション検出器4台、ゲルマニウム半導体検出器2台、トリチウム,ストロンチウム90を測定するための、液体シンチレーション測定器3台の計9台が毎日フル稼働しています。



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
■ガンマ線	146	147	166	101	98	158	143	172	183	137	135	169	1755
■ベータ線	15	29	11	15	10	10	21	21	25	24	15	18	214
合計	161	176	177	116	108	168	164	193	208	161	150	187	1969

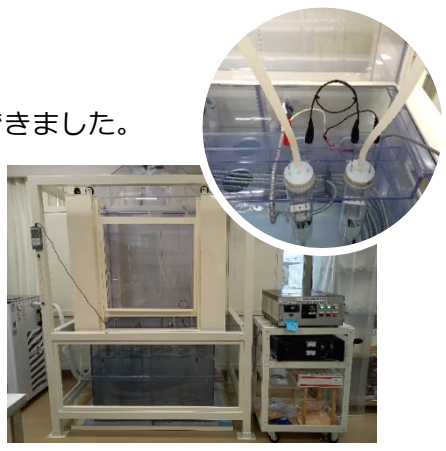
■ガンマ線…Cs137、Cs134を測定 ■ベータ線…トリチウム、ストロンチウム90を測定

電解濃縮槽の導入

2023年3月に、たくさんの方からのご支援によって電解濃縮槽を導入することができました。いつも私たちの活動を応援してくださりありがとうございます。

現在は、トリプリア電解濃縮装置を使用して1検体約60時間で濃縮をし測定をしていますが、1度に最大10検体の電解濃縮が可能な大型の電解濃縮槽を導入することで、現在よりも多くの検体の処理が可能になります。

装置の調整がかなり難しく、試行錯誤を繰り返し試験運転をおこなっています。スタッフみんなで力を合わせ、本格稼働に向けて頑張っています。



二酸化マンガン捕集法による測定

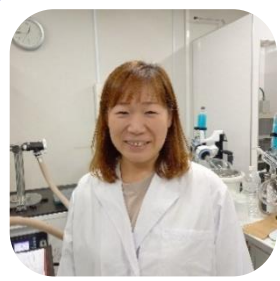


福島第一原発敷地内にタンク貯蔵されている汚染水の7割近くは、トリチウム以外の放射性物質が基準値を超えていると発表されています。

そこで、ALPS処理汚染水の海洋放出口に一番近いたらちね採取地点Dの海水中のマンガン54、鉄59、コバルト60、亜鉛65、ニオブ94、ルテニウム106、セリウム144を二酸化マンガン吸着捕集法で測定することを始めました。

現段階では、すべてND不検出ですが、今後も測定を続け推移を見守りたいと思います。測定結果のクロスチェックは、分析専門機関の結果と誤差の範囲内で一致しています。

トリチウム測定担当の鈴木です。

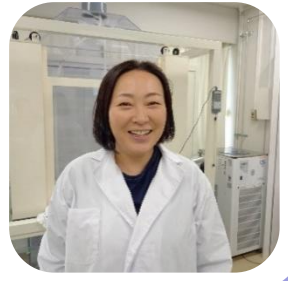


震災・原発事故後12年が経ちましたが、子どもも大きくなるにつれて正直、放射能のことは日々の生活の中でそれほど気にしなくなっていました。しかし、この仕事を始めて食材によってはまだまだ数値が高いものもあり、気をつけなければならないと同時に測定を続けていくことの必要性を実感しました。また、海洋放出が開始され今後の測定データも更に重要になっていくので、今まで以上に測定に力を入れ頑張っていきたいと思っています。

ストロンチウム測定担当の相澤です。

入所してから、それまで見ていた毎月の測定データがどのような過程で出されているのかを目の当たりにして驚きました。

地味な作業をコツコツと、そして時にはとても力のある過酷な作業もあり、入所して9か月、私もこのメンバーの一員であることを誇りに思いながら、「丁寧に」を一番に心がけて、より精度の高いデータを積み重ねていけるよう精進してまいりたいと思います。



2023年8月24日

・政府・東京電力は、福島第一原発構内のタンクに貯蔵されているALPS処理汚染水の海洋放出を、地元関係者はもとより国内外の人々の声を押し切って強行した。
 ・第1回目の放出は、9月11日午後まで行われ、約7788トンが放出された。2回目の放出は、10月23日午後まで行われ、約7810トンが放出された。今年度は、3万1200トンと4回に分けて放出する計画としている。

8月31日

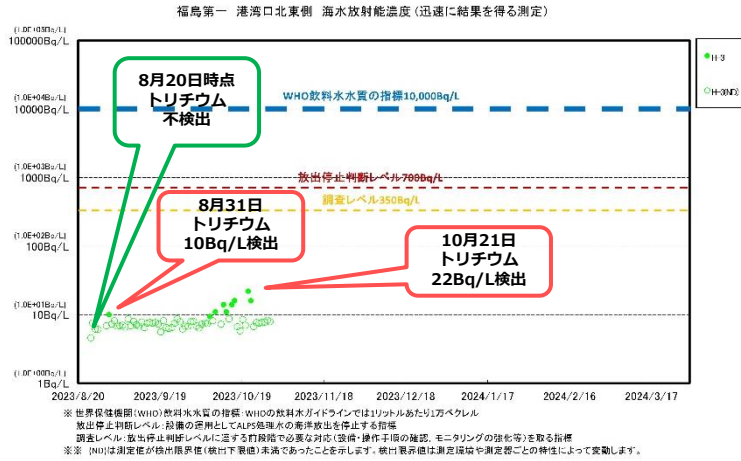
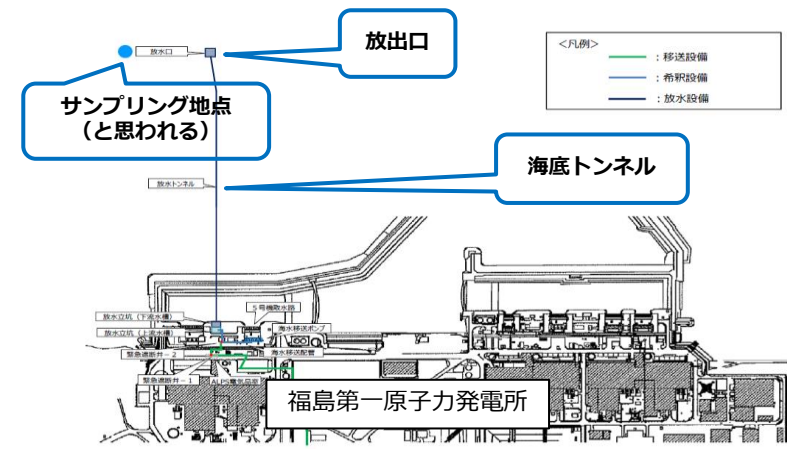
・放出口から200mの地点で、**10Bq/Lのトリチウムが検出**された。（東京電力のモニタリングは表層のみ。放出口との位置関係は非公表だが、放出口北200mの位置と考えられる）

10月7日

・放出口から200mの地点で、**9.4Bq/Lのトリチウムが検出**された。（東京電力のモニタリングは表層のみ。放出口との位置関係は非公表だが、放出口北200mの位置と考えられる）

10月21日

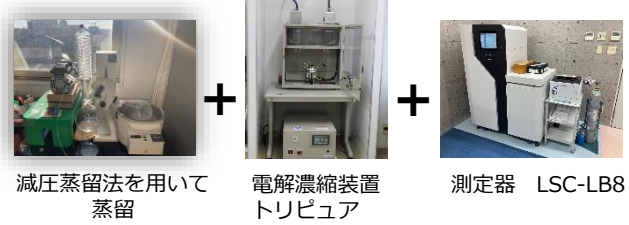
・放出口から200mの地点で、**22Bq/Lのトリチウムが検出**された。（東京電力のモニタリングは表層のみ。放出口との位置関係は非公表だが、放出口北200mの位置と考えられる）



分析機関とのクロスチェック結果

測定結果の信頼性を測るため、適時、他分析機関とクロスチェックを行っています。
 ※クロスチェックとは…測定の精度や信頼性を高める手法の一つで、同じ試料を他分析機関と測り比べること

使用する分析機器



測定機関	測定結果
分析機関	0.13±0.02
たらちね	0.16±0.04
たらちね	0.16±0.04

※たらちねでは、同じ試料を2回分析

クロスチェックの結果は、誤差範囲内で一致しており、測定結果の信頼性を維持することができています。今年導入した日立アロカ製 液体シンチレーション測定器での測定は、従来より検出下限値が下がるため、更なる技術アップが求められておりました。しかし、今回の結果より、それらもクリアできていることが証明でき、ラボスタッフも安堵しています。今後も、測定結果の信頼性を第1に、頑張って参ります！

自由水トリチウム測定結果

自由水型トリチウムの測定結果です。
 「電解濃縮装置トリピュア」を使用し分析を行いました。
 川水、湧き水、水道水いずれからもトリチウムを検出しました。これらの結果からも、環境中にトリチウムが存在していることがわかります。
 処理汚染水放出が強行される中、現状の環境中トリチウム濃度を把握しておくことの重要性和緊急性は、ますます大きくなっています。

試料種類	採取地	採取月	測定値(Bq/L)
川水	福島県只見町	2022年6月	0.26±0.05
川水	東京都東久留米市	2022年6月	0.20±0.12
川水	長野県須坂市	2022年7月	0.21±0.05
川水	兵庫県明石市	2022年7月	0.17±0.05
湧き水	東京都東久留米市	2022年6月	0.33±0.13
水道水	山口県山口市	2022年6月	0.35±0.04
水道水	愛媛県松山市	2022年6月	0.31±0.04
水道水	広島県広島市中区	2022年6月	0.20±0.05
海水	茨城県東海村	2022年7月	ND<0.04
海水	石川県七尾市	2022年7月	ND<0.05
海水	静岡県静岡市駿河区	2022年6月	ND<0.04
海水	兵庫県明石市	2022年7月	ND<0.04

試料受付は、随時行っています。皆様のご自宅の水道水、海水や川水等、測定してみませんか？試料量などは、事務局へお問い合わせください！



海洋調査測定結果

【沖合調査】 2022年11月9日 福島第一原発沖

Bq/L

海水		セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
海水A	表層	0.004±0.0005	ND<0.04	0.001±0.0003
海水A	下層	0.004±0.0006	ND<0.05	0.0008±0.0003
海水B	表層	0.003±0.0005	ND<0.05	0.0015±0.0003
海水B	下層	0.003±0.0005	ND<0.04	0.0012±0.0003
海水C	表層	0.002±0.0005	ND<0.04	0.0019±0.0004
海水C	下層	0.003±0.0005	ND<0.04	0.0011±0.0004
海水D	表層	0.005±0.0006	ND<0.04	0.001±0.0003
海水D	下層	0.003±0.0005	ND<0.04	0.0012±0.0003
海水	富岡港	0.012±0.0007	ND<0.04	0.0008±0.0003



【最新!! 沖合調査】 2023年8月2日 福島第一原発沖

Bq/L

海水		セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
海水A	表層	0.002±0.0005	分析中	0.0005±0.0003
海水A	下層	0.008±0.001	分析中	ND<0.0004
海水B	表層	0.003±0.0005	分析中	ND<0.0004
海水B	下層	0.003±0.0006	分析中	0.0007±0.0003
海水C	表層	0.003±0.0005	分析中	ND<0.0003
海水C	下層	0.003±0.0005	分析中	ND<0.0004
海水D	表層	0.003±0.0005	分析中	ND<0.0003
海水D	下層	0.004±0.0006	分析中	ND<0.0003
海水	富岡港	0.008±0.0006	分析中	0.0005±0.0003

魚	Cs-137 (Bq/kg生)	TFWT (Bq/L)	Sr-90 (Bq/kg乾)
シロメバル	1.2±0.1	—	ND<0.14
ヒラメ	0.9±0.04	—	ND<0.10
マダイ	0.5±0.1	ND<0.44	ND<0.12
アイナメ	0.9±0.1	—	ND<0.11

※検出したされたものは、赤字で記載
 ※組織自由水型トリチウムはTFWTと表記
 ※—は、試料量が不足のため未測定

【沿岸調査】 2022年5月～7月 福島県沿岸

Bq/L

	セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
相馬港	0.006±0.0006	—	ND<0.0007
村上海岸	0.009±0.0006	ND<0.13	ND<0.0006
請戸港	0.017±0.0007	—	0.0016±0.0005
双葉海水浴場	0.071±0.001	ND<0.13	0.0016±0.0005
熊川河口	0.024±0.0008	—	ND<0.0008
岩沢海水浴場	0.016±0.0007	ND<0.05	0.0012±0.0005
小名浜港	0.004±0.0005	ND<0.11	ND<0.0007

魚	セシウム137 (Bq/kg生)
ヒラメ	0.9±0.1
キツネメバル	0.4±0.05
クロソイ	0.3±0.1
シロメバル	0.7±0.05
サメ	1.7±0.1

※海水中及び魚中セシウム134は、全て不検出だったため未記載
 ※検出したされたものは、赤字で記載
 ※魚中、トリチウム・ストロンチウム90は分析中



※—は、前処理が不十分だったため欠測

福島県以外の太平洋沿岸の調査もはじめました！



各地の有志の方々のご協力のもと、2023年4月から宮城県沖と沿岸部の調査をはじめました。また、千葉県から茨城県までの調査もご協力いただき進めていく予定です。

たらちね海洋調査の結果は測定が終わり次第随時更新しています。
 たらちねHPよりぜひご覧ください。

<https://tarachineiwaki.org/radiation/result#kaiyou>





2023年は、2011年の原発事故以来の苦しい年となってしまいました。

福島第一原発の原子炉から溶け落ちたむき出しの核燃料。遠隔ロボットでさえほとんど回収できていない核燃料デブリに触れた汚染水を、国と東電は故意に海に放出し始めました。放射性汚染物質を、世界につながる海に流す正当な理由はあろうはずがありません。しかも、漁業関係者との約束を破っての強行でした。

「有害物質も薄めて捨てれば問題ない」「他の国でもやっている」そのような理屈がまかり通る世の中を、次の世代を担う子どもたち、にどう説明すればよいのでしょうか。

私たちの世代は、私たちの国は、とんでもないものを後世に残してしまいました。せめて私たちは、それを反省し、これからの路を正して、次に繋いでいくべきです。この期に及んで、「間違えではないし、問題はない。これからも推進していく。」というのは、あの事故から何も学んでいないとしか思えません。

原発事故によって生み出される放射性物質は、可能な限り、できるだけ、少しでも環境中に出さないようにする。これ以上海を汚さない、大地を汚さない、空気を汚さない。子どもたちに伝えたいことは、それを実践していく姿勢ではないでしょうか。とんでもない事態を引き起こしてしまった今、せめてもの償いだと思うのです。



Photo by Misao Fujita

原発推進が国の政策としてある限り、あの事故で被害を受け、傷を負った人々は救われません。どんな言葉も美談も、その場しのぎの絵空事のように思えます。原発で苦しめられているのは福島だけではなく、日本のいたるところで住民が分断され、辛い思いを強いられています。子どもたちの未来を守るため、一人でも多くのおみなさんと繋がっていきたく思います。

2023年11月 藤田操



たらちねこどもドック

今年は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時流行し、来院患者数が急増しました。

他院で断られた方、一人暮らしを始めたばかりの新社会人の皆さん、他県から引っ越しをしてきたお母さんたち。様々な環境にいる方々の不安を取り除きたいと、スタッフ一同できる限りの受け入れを心掛けました。

お断りをせざるを得ない患者さんには、その日夜の過ごし方や翌日朝一番でのご案内をしたりと、取り残されたと感じないようにお話をさせていただきました。

また、今まで同様定期的に【たらちねこどもドック】を受検される方も発熱外来とは時間をずらし実施しました。

発熱受診がきっかけで【たらちねこどもドック】を知った患者さんからのお問い合わせも多数いただきました。その中には、自身が震災当時学生だったお母さんもあり、お子さんを連れて【たらちねこどもドック】を親子で受検されました。お子さんは、ママとお揃いの【たらちねこどもドック手帳】を藤田先生から受け取り、にこにこご機嫌でした。

すでに大人だった私たちにとっては、つい最近の震災・原発事故のように感じる今日も、実際には子ども達が親になるほどの長い年月が経過しているのだと改めて感じました。

これからもまだまだ長く続く道のりですが、あの時子どもだった子も、これから大人になる子も安心して暮らしていける未来へ、道しるべの役割を果たしていきたいと思えます。



🌸 こどもドック手帳のご紹介 🌸



対象者：東日本大震災当時、18歳以下だった方(お誕生日が1992年4月2日以降の方)		
検査項目 ※希望する項目のみを受けることもできます	自己負担で検診を受ける場合	全国の皆さまからのご支援を受けて検診を受ける場合
診察 ・内科診察		
甲状腺超音波(エコー)検査 ・のう胞や結節などの有無を調べます	3,500円	無料
ホールボディカウンター(WBC) ・全身の放射能測定(5-15分間)	無料	無料
尿中セシウム測定 ・自宅で2ℓの蓄尿が必要です	4,000円	無料
身体計測・生理学的検査 ・身長・体重・視力・聴力・血圧		
血液検査 ・末梢血液一般 ・FT4 ・CRP ・ALT ・カルシウム ・クレアチニン ・ナトリウム及びクロール ・CK ・LD ・Tcho ・HDL-C h ・中性脂肪 ・末梢血液像 ・TSH ・AST ・血糖 ・ヘモグロビンA1c ・BUN ・UA ・カリウム ・BIL/総 ・γ-GT ・ALP	5,260円	無料
尿一般検査 ・比重、PH、蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血		
心電図	1,300円	無料
合計	14,060円	無料

項目	検査名	単位	基準値
内科検査	LDH	U/L	100~245
	γ-GTP	U/L	男性以下/女性以下
	CKP	U/L	男性50-230/女性50-210
	コレステロール	mg/dL	150-219
	中性脂肪	mg/dL	50~149
	F-DL	mg/dL	男性92/女性90
	BUN	mg/dL	8.0~20.0
	クレアチニン	mg/dL	男性0.6-1.09/女性0.6-0.82
	尿酸	mg/dL	男性3.6-7.0/女性2.7-7.0
	ナトリウム	mEq/L	135~145
カリウム	mEq/L	3.5-5.0	
クロール	mEq/L	98~108	
カルシウム	mg/dL	8.6~10.2	
CRP	mg/dL	0.30以下	
血糖	mg/dL	70~100(空腹時)	
ヘモグロビン	(g)	11~15.1	
ヘマトクリット	(%)	35~45.1	
赤血球	($\times 10^9/L$)	4.5~11.5	
白血球	($\times 10^9/L$)	4.0~10.0	
血小板	($\times 10^9/L$)	140~400	
尿一般検査	比重		1.000~1.030
	pH		5.00~7.00
	潜血		0.01~1.70
	蛋白		0.50~5.00
	糖		0.0~0.2
	ビリルビン		0.1~0.4
	胆红素		0.1~0.4
	尿酸		0.3~0.5
	ALP		124~238

My Note

氏名 _____

生年月日 _____

2011年3月11日の避難場所 _____

福島原発事故発生時の避難状況

〈避難1〉 月 日 _____ から _____ へ

〈避難2〉 月 日 _____ から _____ へ

〈避難3〉 月 日 _____ から _____ へ

〈避難4〉 月 日 _____ から _____ へ

〈避難しなかった〉 _____

その他お気づきのこと _____

Tarachine Clinic MRF

こどもドックの検診結果を記録するページ

名前や生年月日、避難状況などを書くページ

院長コラム

たらちねHPのクリニックのコーナーでは、『日々の新聞』に毎月掲載している院長コラム「みさお先生のたらたら日記-ぼくのノート」を紹介しています。日々の想いを時に優しく、時に鋭く綴ったコラムの中から一部を紹介します。

先生のコラムの
バックナンバーは
こちらです！→



ぼくのノート 「最後の一滴まで」

「人の命は、地球よりも重い」以前そう言った日本の首相がいた。

最近、人の健康と経済を天秤に掛けて論じられることがある。命は、何かと比較したり、天秤に掛けられるものではない。

水との分離が困難なトリチウムは、容易に体内の細胞に入り、DNAに放射線をあびせる。また母乳を通し、赤ちゃんにも残留する。

細胞が傷つけられて起こる健康被害は、世界でも調査報告されている。カナダのピカリング原発では新生児死亡率・ダウン症・小児白血病が、北海道の泊原発では周辺町村のがん死亡率が増加した。

IAEAは「処理水の海洋放出による人や環境への影響は、無視できる程度」と報告した。

傷つけられた命、人知れず消えていった命が、どれだけあれば「無視できない」レベルになるのかを問いたい。

最後の一滴まで、そんな命の声は無視され続けるのだろうか。



Photo by Misao Fujita

たらちねの出張甲状腺検診は月に1回～2回、土日祝日で地域の公民館や施設で行っています。事故当時18歳のお子さんだった方も、13年が経ち31歳になり子どもを連れて検診に来るようになりました。時間が経っても健康への不安はまだあります。2023年1月からでも、たらちねの甲状腺検診を初めて受けた方が195名います。

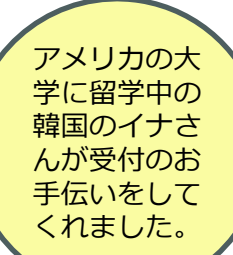
今回、亘理中央公民館での検診に娘さんと一緒に初めて来た方は、事故当時双葉郡に住んでいたが避難後一度も地域で健康へのサポートがなく、娘さんに亘理での甲状腺検診があるからということで連れて来て貰ったと話されていました。まだまだ本当にサポートを受けなければならない人たちがいます。これからも、地域に寄り添って、たらちねの出張甲状腺検診を行ってきたいと思います。

甲状腺検診一覧 2023年1月～9月 検診人数

出張検診日	場所	人数
1月9日	たらちねクリニック（いわき市）	27
1月29日	北茨城市中郷多目的集会場（北茨城市）	39
2月23日	パルシステム東京（東京都新宿区）	21
2月26日	北茨城市民ふれあいセンター（北茨城市）	45
3月26日	南相馬市労働福祉館（南相馬市）	34
4月9日	会津若松日新コミュニティ（会津若松市）	26
4月23日	郡山コスモス通り教会（郡山市）	41
5月14日	須賀川東公民館（須賀川市）	22
6月11日	亘理中央公民館（宮城県亘理郡）	47
6月25日	二本松福祉センター（二本松市）	17
7月2日	白河市図書館（白河市）	12
7月25日	まち子ちゃん店（田村市）	23
8月6日	角田市民センター（宮城県）	43
9月10日	白石市中央公民館（宮城県）	25
9月24日	保原交流会館（伊達市）	20
10月15日	サンライフ福島（福島市）	4
合計		446



いわき市を出発して会場づくりから始めます。



アメリカの大学に留学中の韓国のイナさんが受付のお手伝いしてくれました。



藤田先生が画像を見せて丁寧に説明します。



甲状腺検診にぜひ来て欲しいというご希望がありましたら、ご連絡頂けると嬉しいです。
古閑


甲状腺検診予定 10月～12月

出張検診日	場所
10月29日	置賜文化センター（山形県）
11月23日	安積学習センター（郡山市）
11月26日	広野公民館（双葉郡）
12月1日	パルシステム東京（新宿区）
12月2日	パルシステム東京（三鷹市）



子どもたちの転地保養事業

2019年からのコロナ禍により、これまでの一度に50名程度の大規模保養ではなく、家族単位の小規模保養にシフトせざるを得ない状況となりました。震災から10年以上が経ち、保養のニーズが変化してきた時期でもありましたが、保養の形を進化させ継続していくことに意義があると改めて感じました。

原発事故前後に生まれた子どもたちは、思春期前期と言われる年代になり、心の問題が表に現れる時期です。保養には、それらを緩和させる力があり、身体的な放射能デトックスの役割だけでなく、心の安定と休養をもたらすプログラムとして役立つことを認識しました。

参加された方の声として「子どもをゆとりある目で見ることができるようになった。」「子どもの成長が客観的に感じられるようになった。」など、余裕が出たという感想が多くありました。

2023年12月に認定NPO法人沖縄・球美の里が解散し、たらちねが事業を引き継いだことをきっかけに、現在は「保養と心のケア」の連携をすすめ、十分に準備を重ねながら実施しております。



沖縄・球美の里

2022年10月から2023年9月まで、19回の保養を実施しました。36家族(子ども68名・大人50名)合計118名の方が沖縄 久米島に4泊5日滞る、ファミリー保養に参加しました。

シーサー作りや久米島の赤土を利用した泥染め・海水浴や磯遊びなど、沖縄でしかできないプログラムをみなさん満喫している様子でした。

発酵食品を取り入れた、こだわりの食材で手作りの健康的な食事も大好評でした。

今年は、台風6号の影響により8月の保養は中止となりました。たくさんのご支援やお心遣いありがとうございました。



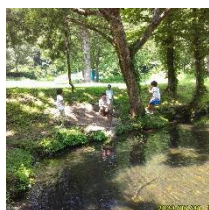
kuma=beko

くまべこお泊り会 in 南会津

2023年は、夏と冬の年2回お泊まり会を実施しました。大人21名・子ども17名の合計38名の方が保養に参加しました。

くまべこお泊り会は、南会津郡只見町の「森林の分校ふざわ」で2泊3日のファミリー・学童保養を実施しています。

1月の冬保養は、餅つき、うち豆体験などを楽しみました。今年はかなりの量の雪が積もっていたので、雪遊びがとても盛り上がりました。



7月の夏保養は、恵みの森でのトレッキング・沢遊び、生き物観察、BBQを楽しみました。夏ならではの祭り体験や花火など、盛りだくさんのプログラムを実施し、子ども達も大喜びでした。

豊かな自然環境に恵まれた奥会津で、季節でしか出来ない遊びを楽しみました。



オルト・デイ・ソーニ イタリア転地保養

2019年より中止となっていましたイタリア転地保養が、4年ぶりに開催されました。イタリア中部の自然豊かな町「メルカテッロ・スル・メタウロ」で、実施することができました。

感染予防のため4名での保養となりました。7月からの1か月間親元から離れ、異文化交流を通して視野を広げ、自立心・好奇心を育むことができるようなプログラムを体験しました。



朝のハイキング、染色体験、パスタ作り、川遊び、地元の方々との交流など、参加した子どもたちが家族のように協力し合いながら、のびのびと過ごしました。



あとリエ・たらちね こころのケア

2023年度から『ママカフェ』を月1回開催しています。ワークショップ形式で、手作業をしながらおしゃべりをする形をとっています。ママたちのクオリティの高い作品が出来上がり、無言となり作り続ける時間もありますが、何かに没頭したり無心になれる時間というのは、私たちが思っているより、頭をクリアにする効果があるようです。リフレッシュしてもらい、一人じゃない、まわりにも同じ人たちがたくさんいること、来て良かったと思える空間づくりを大切にしています。

コロナ期間中の育児は閉鎖的で気軽に出掛けることもできず、苦しい思いの中、子育てされてきたママたちは多いと思います。それはまさに東日本大震災を思い出すようでしたね。

子育ては一人で行ってはいけません。むかし、縄文時代は子供は誰の子ということもなく、「ムラの子」としてみんなで育てていたと言われていました。子どもは大切な社会の財産ですから、みんなで役割分担しながら、協同して子育てをしていたようです。

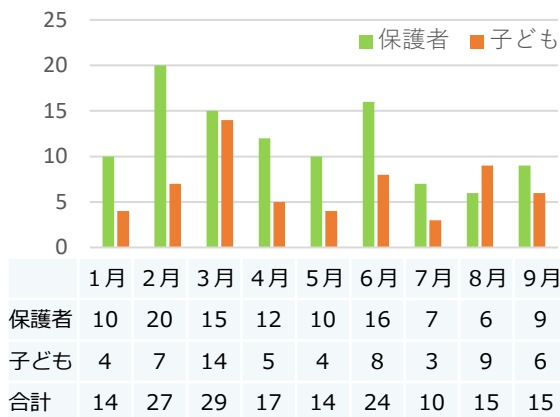
あとリエ・たらちねでは、ママたちをナラティブセラピー（語りがもたす力）や非言語のボディワークを中心にしたマッサージ。子どもたちにはあそびの力を通してこことからだ両面から元気にするお手伝いをしています。

またママや子どもたちを支えていけるよう、黒部信一先生の勉強会やCAP子どもの見守りプロジェクトにも参加し、スタッフ内での研修も日々行っています。



あとリエ・たらちね利用者数(延べ人数)

2023年1月～9月 165名



ママカフェや
あとリエの様子



WAIMH 世界乳幼児精神学会 第18回ダブリン大会 in アイルランド

WAIMHは、世界各国の乳幼児精神保健（赤ちゃんと家族のこころの健康支援）の専門家、実践者が国籍、人種、文化、職種を超えて集う学会です。

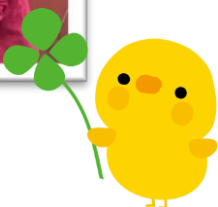
今回、郡山市菊池医院の菊池信太郎先生のプレゼンテーション発表でのサポートに携わりました。また、たらちね独自で学会開催期間中ブースを持ち、震災から12年が過ぎた子ども達の心の様子を中心に発信しました。

福島第一原子力発電所の事故を受け、放射能汚染による見えない脅威と恐怖は母から乳幼児に伝わり緊張状態が続きました。12年経った今、乳幼児期の不安と緊張が疲労と怒りになり、家族に影を落としていることなど、時間が経っても解決しない深い状況を伝えました。

ブースを訪れた人々は、「たらちね」が子ども達に提供している遊び、ボディワーク、母親たちのナラティブ、沖縄やイタリアの転地保養から得られる自然環境の癒し効果に強い関心と反応を寄せました。被災地で被災者が活動する姿に共感し、地元の大学生からは卒業後、ボランティアで「たらちね」を訪れたいとの申し出もありました。

そして、もう一つの関心事は汚染水の海洋放出。海外の多くの方々放射能による環境汚染に関心を持ち、たらちねによる海洋調査のデータを熱心に見ていました。今後起こりうる放出を見据え、地道に測定を続ける活動は素晴らしい、必ず必要とされていくデータであること、この大事な活動が市民の手によって運営されていることに、賞賛の言葉を頂きました。原発事故を経験した我々だからこそ、伝えられたものがあつたと思います。

たらちねブースでの様子





～過去は未来をどうつくったのか？未来は過去にどうこたえるのか？～

昨年度から、たらちね・こころのケア事業の中で新たに始めた、「原発事故被災地の歴史探訪プロジェクト」は開始から1年が経ちました。この事業の目的は、被災地の歴史を紐解き、そこに生きる人々の心の変化を感じ、知ることにより、過去の経験を学び、学びを未来への糧として繋いでいくことです。被災地の人々からお話を聞かせていただいたり、地域の博物館や資料館からの情報収集、文献調査を中心に事業を進めています。これまでの探訪調査で分かったことや、これからの展開について報告させていただきます。

①原発がある土地の歴史について

原発立地地域には、縄文時代から平安時代にかけて、数多くの遺跡が残っており、昔から、たくさんの人々が賑やかに生活してきた痕跡がありました。しかし、東京電力福島第一原発が誘致された1955年ごろには、人口が少ない地域になっていました。なぜ、人口が減ったのか？今後は869年の大地震による貞観津波を中心に自然災害と人口の推移をみていきたいと思っています。このように時系列で歴史を追っていくと、福島第一原発が建っている地域にも躍動する人々の暮らしがあり、その暮らしが、大きな自然災害や、国家発展のための「エネルギー供給地」としての役割を課せられるという国策に、翻弄され続けた歴史があることがわかってきました。そして、その歴史は未来にも繋がっているのだと感じました。

②人々の生活と人の心の移り変わりについて

被災地の人々にお話を聞かせていただいた結果、原発ができる前と原発ができた後では、地域の人々の幸せの感じ方が変化している様子が伺えます。

原発ができる前は、自らの知恵や工夫で一所懸命に命を繋いできた様子が伺えました。そこに第二次世界大戦の敗戦から、熱源としてのエネルギー転換があり、木炭から化石燃料、そして、原子力発電へと移り変わっていきました。原発ができた後は、雇用が生まれ、人々の暮らしも時代とともに大きく変化していきました。周りの人との生活の質を比べ、物質的な豊かさを追求していく様子が垣間見えます。生活環境の変化にともない、人々の「何が幸せなのか？」という価値観も変化してきたのだと感じました。さらに、震災・原発事故の後、幸せのありかたがどう変化しているのかも今後、見ていきたいと思えます。

③事業から見てきた未来と子どもたち

震災後13年が経って今もなお、震災がもたらした心の喪失により、現実を直視できない人々が多くみられます。その一方で、未来へ向けて、この人災に対し強い意志を持ち行動している高齢者の方々もいます。私たちは、何を目指さなければならないのでしょうか。子どもたちの未来に向けて、この学びを糧にして、未来をどうつくっていくかを考えていきたいです。

この事業はまだまだこれからです。事業を進めていく中で、いつからボタンの掛け違いが起きたのか…。

事業を通じ、人の幸せとは、子どもたちの幸せが示してくれると確信しました。

原発事故被災地の歴史探訪プロジェクトの詳細は、折に触れ報告させていただきます。



担当スタッフの声

なぜ歴史探訪プロジェクトがこころのケアの事業に含まれるのか…はじめはよく理解できてなかったのですが、多くの人々の聞き取りを通して、歴史には人々の心理、心の変化が大きく関わっていると感じられた一年でした。一体何が人のこころの変化を生み出したのか、ひとりひとりの語りから読み解いていきたいと思えます。当時を生きた人々の思いを記録し、これからを生きる子どもたちに正しく伝えたいと思っています。よりよく生きる手がかり、知恵として繋がって欲しいと願っています。



安藤信正公像

地域の神社

文献調査

楢葉町の伝言館

日新館



防災・原発事故の心得

日本には多くの原子力発電所があります。原子力発電所事故は、地震や津波等との複合災害として突然起きるものです。今、日本では、千島海溝巨大地震、南海トラフ地震等、大規模災害が起きることが予想されています。その時の被害想定や対策についてあらゆる所で語られていますが、原子力発電所事故は含まれていないのが現状です。福島第一原発事故を経験した私たちにとっては、原発事故がそのカテゴリーに含まれていないことは、意外でした。



たらちねスタッフのほとんどが、放射能に対して無知だったため、子どもたちを正確な情報と、知識で守れなかった事を後悔しています。同じ思いをするお母さんたちをこれ以上増やさないためにも、私たちの持っている経験を、知識を、情報を役立ててほしいと思っています。

内閣府HP、防災情報ページ

内閣府が作成した「みんなで減災」、防災情報ページがあります。いろいろな災害を知って備えようと、命と暮らしを守るための防災の手引きが発信されていますが、原発防災について掲載がありません。12年前の教訓から、活かされた対策は何もないのでしょうか。このままでは、万が一、どこかで同じような事故が起こった場合、福島の時と同じ状況が繰り返されてしまいます。

こちらは内閣府の防災ページ
お役立ち情報から一般向け、防災の手引きをクリック

さまざまな災害を知ろう



たらちねHP、「防災・原発の心得」ページ

原発事故の際、まず**正確な情報を得ることがとても大事**な事です。事故後、正確な情報を得ることも、得る方法もわからず、混乱した方が多くいました。たらちねHP「防災・原発の心得」ページでは、万が一に備えて、すぐに情報が得られる体制を整えています。また、この中には、実際経験した人たちの体験談や困りごとエピソードも掲載しています。家族構成やそれぞれの考え方で、その後の行動に大きな違いがあることが分かりました。

実体験エピソード

震災当時の家族構成



どこにいたか	福島第一原発から10km圏内の自宅に子どもといるときに激しい揺れに襲われ、お昼寝をしていた娘を抱いて外の駐車場に逃げた。誰にも連絡がつかずだったが、義父母が心配して自宅まで来てくれた。
震災直後の行動	自宅近くまで津波が来ていたので、高台の小学校に避難した。翌日早朝に原発が危機的状況だと聞かされ、どこも大渋滞でガソリンが少なかったから、封鎖されていたガタガタの国道を次の避難先に向けて必死に走った。
避難	自宅に一度戻り娘のミルクなど必要なものを持って避難した。その後自宅は立入禁止区域になってしまったので、滞在できる避難先を求め10か所以上の避難先を転々とした。避難者という事を知られなくなかったので、日々の買い物以外の外出はしなかった。
放射能	放射能汚染の知識がなかったので、汚染が進んでいる心配より広島、長崎で起きた原爆を想像して最悪の事態を覚悟した。測定を受けないと受け入れてもらえないと言われ、衣服の測定をしたらすごい線量で恐怖を感じた。
後悔	自宅から見るとところに原発があって当たり前のように生活していたので、原発で事故があった場合どんなことが起きるのか全く知らず興味もなかった。無知は怖いと痛感している。政治・政策を人任せにせず、自分の感覚を行動に移しておけばと思った。

たらちね防災プロジェクト始動

本事業は、休眠預金を活用した民間公益活動として、助成金を活用して実施しております



3.11でたらちねが経験したことを、みなさんの暮らしに役立たせるため、一緒に知り・学び・見て感じてもらうプロジェクトです。参加優先対象者は、南海トラフ大地震で大きな被害を受けることが想定される原発立地市町村近隣の方でしたが、多くの方からの申し込みがありました。知る・学ぶ編は、講師の先生をお招きしてのリモート学習会、福島現地見学会。実践編は、たらちねラボでの放射能測定や、出張甲状腺検診体験となっています。

実施プログラム1

知る・学ぶ編 * 被曝を知る・防災を考える・福島の今を見る



実施プログラム2

実習編 * 放射能を測定する・甲状腺検診の現場を知る



参加者からの声

- ・メディアの情報でしか福島を知る事がなかったため、今も尚深刻な問題が多々ある事を知った。
- ・現地で実際に見て、肌で感じる事の大切さを知った。3月の現地見学会は、とても貴重な体験だった。
- ・原発防災について学び、1人でも多くの人に伝えられるようになりたい。私が被ばく防護の知識を得られたら、少なくとも、家族・友人・親戚くらいは守ることができるのではないかなと思う。



ご支援ありがとうございました！

今年もたくさんのご支援ありがとうございました。たらちねは寄付金だけでなく、チャリティイベントの開催や物資のご支援など国内外から沢山の応援をいただいております。



NIPPON IT Charity EKIDEN *ニッポンITチャリティ駅伝様より、ご支援いただきました。



チクチク会の皆さまより、かわいいフェルトの野菜・果物と折り紙をいただきました。



美味しいコーヒーのご寄付をいただきました。



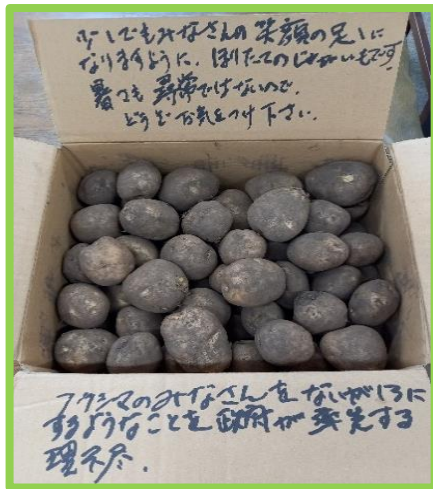
鎌仲様より、かわいいチョコレートのプレゼントをいただきました。



ご支援者さまより、応援のお手紙と一緒に美味しい金柑と手作りのスヌードをいただきました。



ご支援者様より、絵本をご寄付いただきました。

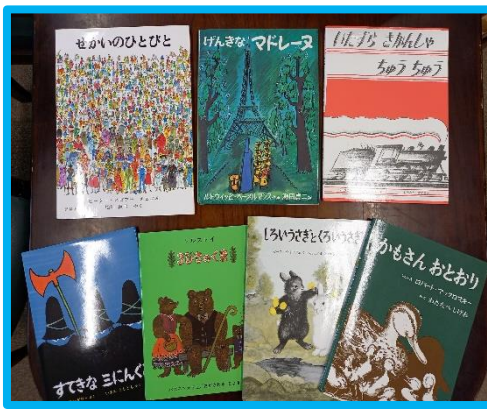


ご支援者様より、お野菜をたくさん頂きました。いつも温かいお言葉を添えてお送りいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



絵本deえが お様より、かわいい配布絵本をいただきました。たらちねクリニックに来院された子ども達にお配りさせていただきました。





神戸在住のご支援者様から素敵な絵本のプレゼントをいただきました。絵本の選書は、神戸市の絵本屋さん【ぼたん堂】さんがしてくださいました。クリニックとアトリエの本棚に置かせていただきます。



交流支援『虹っ子』様より、たくさんのお野菜をご支援いただきました。虹っ子様は、東日本大震災以降から、静岡の有機野菜を福島に贈る活動をされています。

パーキンエルマー様より、国際女性デーに素敵なお花をいただきました。

ご支援者様より、愛媛のみかんと和歌山の柿をたくさんいただきました。



スタンドグラス作家のさえ様より、可愛い親子のとりさんスタンドグラスと書籍のご寄付をいただきました。



たくさんのご支援を本当にありがとうございました!!



「たらちね」の活動は、皆さまからのご寄付でまかなわれております。
子どもたちの命を守るためにご支援・ご協力をお願い申し上げます。



クレジットカードによるご寄付は
インターネット上からお申込み可能です！



ご寄付は税控除の対象になります

たらちねは認定NPO法人です。個人・法人・遺産相続からご寄付をいただいた場合、「寄付金控除」が
ございます。

たらちねにいただいたご寄付は、「特定寄付金」としてすべて所得控除、あるいは税額控除の対象とな
ります。法人からのご寄付につきましては、特別損金算入限度額の寄付金として損金算入することがで
きます。

寄付金控除を受けるには

寄付金控除を受けるためには、必ず確定申告をしてください。

(確定申告の際には「たらちね」が発行した領収書が必要です)

10,000円の寄付をすると…



(寄付金額 - 2,000円) × 40%
が還付されます

※所得税額の25%が限度

Paypal(ペイパル)による
クレジット決済も可能です



《ゆうちょ銀行からのお振込み》

ゆうちょ銀行 02240-5-126296 トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

《ゆうちょ銀行以外のお振込み》

東邦銀行 小名浜支店 店番号 605 普通預金 口座番号 1389887

トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

※振込手数料が免除となる郵便振込用紙がございます。

ご希望の際は郵送で送らせていただきますので、ご連絡ください。

※郵便局(ゆうちょ銀行)の「窓口」からのお振込の場合のみ振込手数料が免除されます。

※ATMおよびゆうちょダイレクト(パソコン、携帯電話、FAX)でのご送金では振込手数料は免除されませんのでご注意ください。

「野の道」

野の道をととのへよう
子らが行く路
樹々もあれ、野の花々
かたはらに蜜も虫も
裸足よ歩けば
ひたひたと
死んでゐるひとたち
うたを唱へば
かやかやと
未だ生まれぬもの等にも
響き伝はる
生きてゐる音
野をならし
道をととのへよ
子らが通ふ野の路
はるかむかうを見るあたり

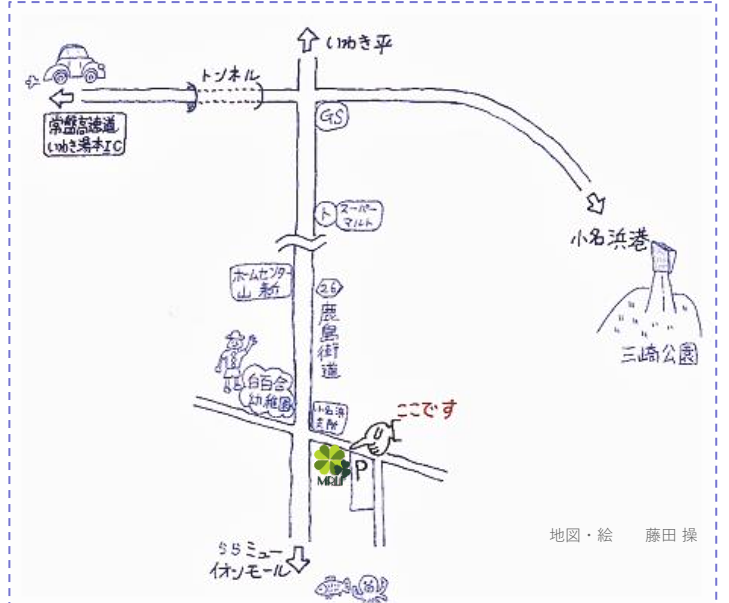
「子どもたちの歩く道をととのえていく」私たちが日々大切にしていることです。
子どもたちの毎日を支える活動の詩(うた)です。

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
〒971-8162 福島県いわき市小名浜花畑町11-3
カネマンビル3F
TEL 0246-92-2526 FAX 0246-38-8322
メールアドレス toiawase@tarachineiwaki.org

ホームページ インスタグラム フェイスブック



随時更新してます♪ フォローお待ちしております！



たらちね通信vol.22

発行者 認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね
福島県いわき市小名浜花畑町11番地の3
電話 0246-92-2526
ホームページ <https://tarachineiwaki.org>
発行日 2023年11月1日

Copyright © 認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
この内容を許可なく転記することを禁じます